

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 大津野小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							目標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	目標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	★	見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科・領域をつないだ単元をつくり、「学ぶ」過程を大切に、「わかる」「できる」と実感する授業をつくる。</li> <li>国語科・算数科における基礎学力の向上を図る。【課】【思】</li> </ul>	内発的動機付けを行い、自分で考え、表現する場を位置付けた授業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科・算数科の授業は「よくわかる」「学びが面白い」質問項目に対する肯定的評価87%以上にする。【児童アンケート】</li> </ul>	□児童アンケートの質問項目に対する肯定的評価は「よくわかる」93%「学びが面白い」94%。達成率100%。 □課題のある児童に対して個別指導を行ったり、学力テストの結果を元に単元をつないだ授業づくりを行った。	4	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>1時間の授業で付ける力を明確にし、教科・領域をつないだ単元づくりを行い、授業後の見直しを行う。</li> <li>主体的な学びづくりシートを実践・交流し、改善点を次の授業に生かしていく。</li> </ul>	□目標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況 □児童アンケートの質問項目に対する肯定的評価は「よくわかる」97%「学びが面白い」96%。達成率100%。 ◎CMデーで単元のつながりや学習状況を確認したり、基礎的な学力を定着させるために学力アップやドリルタイムを有効に活用した。	5	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きCMデーで単元のつながりや児童の学習状況を確認したり、単元や授業の進め方を学年で話し合ったりして授業改善を行う。</li> <li>児童が主体的に学ぶ姿とはどのような姿なのか、教員が共通認識をもって取組んでいく。</li> </ul>
					児童の課題を分析し、授業改善の推進やドリルタイムの実施、タブレットを効果的に活用していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元テスト(国語科「思考・判断・表現」、算数科「知識・技能」観点)や各種学力調査において、60%未満の児童を低学年6%、中学年9%、高学年12%未満及び全国平均以上にする。【単元テスト・全国学力・標準学力調査】</li> </ul>	□単元テスト(国語科「思考・判断・表現」観点において、60%未満の児童は、低学年4.5%、中学年2.5%、高学年1%。全体での達成率は75%。算数科「知識・技能」観点において、60%未満の児童は、低学年5.9%、中学年4.8%、高学年6.7%。全体での達成率は62.5%。 □全国学力・学習状況調査の分析や学びづくりシートの作成を行い、授業改善に取り組んだ。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力アップや問題データベースを用いて多様な文章問題に取り組ませることで、応用的に文全体の内容を読み取る力を付ける。</li> <li>学力アップデーに活用問題に取り組ませたり、学力補充を行ったりする。</li> </ul>	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元テスト(国語科「思考・判断・表現」観点において、60%未満の児童は、低学年7.9%、中学年3.9%、高学年7.8%。全体での達成率は75%。                      ◎学びづくりシートの実践交流や学力テストの結果を踏まえた授業アイデア例を使った研修などを行い、授業改善に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期ごとに学びづくりシートを作成し実践交流を行ったり、国語科算数科の授業づくり研修を行う。</li> <li>タブレットドリルを活用し、児童のつまづきを把握し指導していく。</li> <li>各学年で付ける力を明確にし、確実に力を付け次の学年に引き継ぐ。</li> </ul>
1	主体性・積極性、共感力の育成	★	継続	自ら課題を発見し、課題解決に向けて努力する児童を育てる【課】【主】	月1回OPT(大津野プロジェクトタイム)を実施し、つきたい力を掲示する。代表委員会等を活用し、異学年でつきたい力等を交流する時間を設定する。	学級力リーダーチャートにおける「目標達成力」を87%以上にする。【毎月のリーダーチャート】	□学級力リーダーチャートにおける「目標達成率」100%(全学級達成)。 □OPTで決めたことを職員研修で交流し意識統一を行なった。また代表委員会でも交流したことで意識して取り組んだ。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流の視点を毎月変え、他学級の取組などが生かせるようにする。</li> <li>代表委員会でタブレットを活用し、他学級の良さを視覚的に気付けるようにする。</li> </ul>	□学級力リーダーチャートにおける「目標達成率」94%(17学級中16学級達成)。 ◎職員間で各クラスの取組を交流するだけでなく、代表委員会で各クラスのOPTで決めたことを交流することで、取組に広がりがでた。	5	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童がOPTに必要性を感じられるように、日々のめあてと関連させ児童主体の取組になるようにしていく。</li> <li>代表委員会で交流後、他のクラスにアドバイスするなど、他学級との交流を行う。</li> </ul>
					学級のよさを認め合える場面を設定する。(なりたい自分の振り返り)	学級力リーダーチャートにおける「相手を受け入れる」を80%以上にする。【毎月のリーダーチャート】	□学級力リーダーチャートにおける「相手を受け入れる」100%。(全学級達成) □なりたい自分の振り返りを学期に1回行い、児童同士でコメントを送り合ったことで、自分では気づけなかった自分の良さに気付くことができた。	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>「相手を受け入れる」心を育む各学級での取り組みを交流したことを生かしていく。</li> </ul>	□学級力リーダーチャートにおける「相手を受け入れる」100%。(全学級達成) ◎なりたい自分の振り返り後、児童同士で付箋を使ってコメントを送り合った。コメントの内容が心の内面に対する評価が増えている。	5	4	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価の継続と相手を受け入れる姿がどのような姿なのかを各学級で共有し、目指す姿に近付けるように働きかけると共に、個への指導、支援を行う。</li> </ul>

1	たくましい体の育成	見直し	めあてをもち、自ら進んで健康・体力向上を図る児童を育てる【課】【主】	課題のある種目について学期ごとの重点項目を設定し、授業改善の推進や「大津野モリモリタイム」等に取組む。	・新体カテストにおける県平均以上の種目率を65%以上に【新体カテスト】 ・運動やスポーツをすることは好きを87%以上。【体カテスト】	□96種目中46種目が達成し、達成した種目率は47.9%。 「運動やスポーツが好き」90.7%。 □職員研修を通して指導力を向上させたり、大津野モリモリタイムを行い主体的に運動する児童を育てた。				□96種目中54種目が達成し増加したが、達成した種目率は56.2%。「運動やスポーツが好き」90.7%。 ◎課題のある種目の強化月間を行うことで、体力の向上を図ることができた。もりもりタイム、体育委員会と遊ぼうデーなどの取組により主体的に運動に取組む児童が増えた。	4	3	3	・新体カテストの目標値を可視化することで児童に意欲を持たせ、目標達成できるようにする。 ・学校だより等で家庭学習の体力づくりを啓発し、継続して体力づくりを行う。
2	教職員の元気・笑顔	継続	業務改善の実施と仕事のスピード化・効率化を意識した職務の遂行【課】【主】	週・月ごとの計画を早めに立て、見直しを持って職務を遂行する。夏季・冬季休業中に会議等のない日を設定する。	時間外勤務時間の平均45時間未満の月100%にする。年次有給休暇5日以上を計画的に取得する。	□時間外勤務時間平均45時間未満の月は、100%であった。 □夏季休業中に一斉閉庁日を設定し、平均4.1日取得できている。	3	3	・業務の効率化を図り、時間外勤務平均45時間未満の月100%を継続していく。 ・冬季休業中の業務を精選し、積極的な有給休暇の取得を促していく。	□時間外勤務時間平均45時間未満の月は100%。年次有給休暇取得は、平均6.4日。 ◎返校時刻の設定を行い仕事の効率化を図ることができた。長期休暇に一斉閉庁日を設定し、会議等無い日を設定することで、年次有給休暇の取得につながった。	4	3	3	・業務の効率化、スリム化を図り、時間外勤務平均45時間未満の月100%を継続していく。 ・長期休業中を含め、会議等の精選を行い、積極的に年次有給休暇を取得できる環境づくりを進めていく。
		★新規	各教職員が具体的な取組を1つ設定し、その達成に向けて挑戦する。【課】【主】	定期面談を実施し、教職員と対話を通して進捗状況の把握し、達成のための支援をしていく。	仕事のやりがいを感じている教職員を87%以上にする。【100年教育アンケート】	□100NENアンケートにおいてやりがいを感じている教職員は92.3%であった。 □教職員との対話を通して具体的な取組を1つ設定できている。また、面談等を実施しその進捗状況について指導・助言している。	3	3	・業務遂行の過程や達成度が自身の有る感へとつながるよう、教職員1人1人との対話を通してフィードバックしていく。	□やりがいを感じている教職員は92.3%。 ◎面談等を通して業務遂行の状況について個別に指導・助言を行った。各分掌で企画し提案・実施することができた。	3	3	3	・学校経営への参画意識の醸成に向け、目標に照らした1人1課題の設定を継続していく。 ・面談等を通じて、教職員のやる気を引き出し、自己有用感を高めていく。
3	保護者・地域から信頼される学校の創造	見直し	自ら主体的に考え行動できること、そして、地域に愛着をもち、地域貢献する児童を育てる【共】	当たり前のこと（挨拶・掃除）が当たり前に行える児童の育成 HPなどを活用し情報公開を行う。月1回以上の通信発行で児童の様子を伝える。	保護者満足度を87%以上にする。【保護者アンケート】	□保護者アンケート満足度は87.5%（17学級中12学級達成）。 □HPや学年通信などで児童の様子を伝えた。また、挨拶や掃除など当たり前に行える児童を育てるために、日ごろから意識統一をして指導を行った。	3	3	・保護者アンケート「学校で認められているか。」「学校の様子が分かるか。」の項目が低いため、児童の様子を通信やHP、電話連絡、クラスルームに授業の様子を載せ具体的に伝える。	□保護者アンケート満足度は89.7%（17学級中13学級達成）。 ◎アンケート項目の中の4項目が目標値の87%を超えた。児童のよいところを褒めたり、児童がお互いのよさを見つけ合い認め合う活動に全校で取り組んだりした。	4	3	3	・HPの更新を組織的に行っていく。HPや通信を通して保護者が学校の様子を把握し、子どもとの会話が生まれるようにしていく。 ・HPやクラスルームだけでなく、電話連絡の際に児童の様子を伝える。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。